

# VERA

Tokyo Woman's Christian University



SPECIAL FEATURE

## 「犠牲と奉仕の念なくば」

—卒業・修了する皆さんへ

学長 茂里 一紘

# 「犠牲と奉仕の念なくば」 —卒業・修了する皆さんへ—



ご卒業・修了おめでとうございます。

卒業生の皆さんは、学生生活の後半2年間は、新型コロナウイルスの感染拡大により、日々の学びや活動に大きな変更と制約を余儀なくされました。大学院修了の方々も事情は同じでした。しかしながらそのような事態の中で、皆さんはよく頑張り、初志を貫徹し、晴れて卒業・修了されました。

## 第1回卒業式式辞

ところで本学は1918年に開学しました。その100年後に当たる2018年入学の皆さんの卒業式は、本学第2世紀第1回の卒業式に当たります。第1回卒業式で、初代学長の新渡戸稲造先生は式辞で次のように述べております（出典：『東京女子大学100年史 [本編]』東京女子大学、2019年、p.51、以下「式辞」）。

在学中、皆さんが常に心掛けられた精神は学校の徽章に表した通り犠牲と奉仕との二つでありますが、此の主義精神はたゞに学校生活に限らず全生涯を通じて守るべき主義であります。（中略）如何なる地位、如何なる職業にあっても拳々服膺すべき主義であることは今更述べる迄もありません。

「拳々服膺」とは、心に留めて忘れないこと、胸にとめて常に行うこと、という意味です。その理由については、「今更述べる

迄もありません」と言いつつも、式辞は続きます。

私は永く異郷に留つて各国の人々と交り、各種の民族に接してみるに（中略）百人百色の説を抱く人々につきあつて益々犠牲と奉仕の念なくば人としての業務を全うし得ないこと、否一歩進めて申せば此の二つの精神があつてこそはじめて二足の動物が人間となることを感じます。

そして、式辞は、「故にあなた方が基督教の精神に基き有能高邁なる諸先生について四年間の鍛錬を遂げられた事を御祝ひいたさざるを得ません」と結ばれています。

## SS精神を拳々服膺して

それから100年。社会は、Society 5.0とも称せられる情報社会、「百人百色」の多様性（ダイバーシティ）を受け入れ、包摂性（インクルーシブ）を目指す社会となりました。新しい可能性や価値観、そして生き方もたらされました。しかしながら他方で、情報社会の匿名性故の不寛容や中傷、多様性の中での差別、格差、そして包摂とは真逆の排除などが身近な生活の中にも多く見られるようになりました。

本学在学中、時にはSS精神と称して、皆さんが折にふれ接してきた「犠牲と奉仕」の精神は、情報化、多様性、包摂性の

現代社会にあつては、これまで以上に重要です。犠牲も奉仕も“寄り添うこと”だからです。それはこれからの社会にあつて、「人間」であるために欠くべからざる基本的行動原理と云つてよいでしょう。

本学第2世紀第1回のこの卒業式で、わたしも、「四年間の鍛錬を遂げられた事を御祝ひいたさざるを得ません」と申し上げたいと思います。本学の「鍛錬」に誇りと自信を持って、それぞれに与えられた新しい場でSS精神を「拳々服膺する」生涯であることを願っております。多くの先輩たちのように、賢く、しなやかで、そして粘り強く。✿

### 2021年度末 現代教養学部卒業生

卒業生数	1,009名	
学科代表	国際英語学科	杉山 佳子
	人文学科	中村 みなみ
	国際社会学科	小泉 晶子
	心理・コミュニケーション学科	鎌 真衣
	数理科学科	藤田 ひかる

### 2021年度末 大学院修了生

修了生数	博士前期課程：18名
	博士後期課程：1名



学長  
茂里 一紘  
MORI Kazu-hiro

## 学びを終えて 学部卒業生のメッセージ

### 挑戦するからこそ

国際英語学科 国際英語専攻

大塚 真希 OTSUKA Maki

“Think and act outside the box.” フィリピンでのワークキャンプに参加し、教会で授かった言葉。この言葉が自分自身や固定観念、国という箱を越えて考え行動するきっかけになり、いろいろなことに挑戦した。



カナダ留学でお世話になったホストファミリーと。筆者は下段左端

特にカナダ留学では、積極的に現地のコミュニティに参加し、さまざまな国籍の人と交流することができた。行動の先に学びや出会いがあることに気付けた4年間だった。支えてくれた家族、先生方、志高い友人に感謝し、今後も視野を広げたい。

### 「ことば」を通して知る

人文学科 日本文学専攻

竹川 知佳 TAKEKAWA Chika

「ことば」と改めて向き合うことを通し、さまざまな物事に疑問を持ち、深く思考する姿勢が身に付いた。集大成である卒業論文では、講義で学んだ古典文学や落語から趣味の漫画やソーシャルゲームまで、幅広い分野を研究対象とした。言語分析のツールなども活用し、多面的に人物像とことばの関連性を解明できたと感じている。新たなフィールドでも「ことば」を大切に、人、地域、国をつなぐ架け橋となれるよう、さらなる研さんを積んでいきたい。



日本語教員養成課程で外国につながる子どもたちと交流。筆者は左端

### 日々変わる世界で成長する

国際社会学科 国際関係専攻

杉山 奏乃 SUGIYAMA Kanano

日本と海外の文化や価値観の違いに関心があり、国際関係専攻を選んだ。あまり英語は話せなかったが、文化の違いを肌で感じたいと思い、準備もそこそこにカナダへ渡航。実際に暮ら



冬のアルバータ大学キャンパス内にて

しながら学ぶことで、そこでしか得られない経験をし、日本を客観的に見る力が身に付いた。留学を通して、日本の良さを大事にしたいが不変のままではいけないと思うようになった。これからも探究心を持ち、常に時代の変化とともに成長できる人でありたい。

### 自由に“考える”

人文学科 哲学専攻

北川 咲緒里 KITAGAWA Saori

私は哲学の中でも“美学”を重点的に学んだ。特に、悲劇を享受する際の快と不快の同時存在という逆説に興味を持った。卒業論文では、古代からの哲学者たちの思索も踏まえつつ、悲劇の逆説的な快を巡る哲学的虚構論の観点から、研究蓄積がまだ少ないビデオゲームを考察した。好きなことの本質を自由に考える幸せと、答えという結果よりも考えるという過程自体が大切だという価値観は、哲学を学ぶ中で得たものであり、今後も大切にしたい。



哲学を共に学んだ友人と。筆者は左端

### 志に挑戦し続けた4年間

人文学科 歴史文化専攻

久野 沙弥 HISANO Saya

吉田松陰の研究をすること、中学校社会科の教員になることを志し、歴史文化専攻で一生懸命学んだ。たくさん欲張って、その度に支えられて、両方の夢をかなえることができた。ゼミでは、歴史の一次史料に触れて、自分でも新しい歴史を発見できるかもしれないということに、とてもワクワクした。歴史史料の面白さと新たな発見の可能性を、次は教壇に立って伝えていきたい。そして、いつか自分の教え子を東京女子大学に送り出したい。



卒業論文執筆のため、大学の友達と広島県・山口県へ。筆者は右

### 感性を磨いた4年間

国際社会学科 経済学専攻

増田 唯 MASUDA Yui

高校時代から経済や金融に興味を持ち、経済学専攻に入学した。3年次からのゼミでは貧しい人々への融資を学び、卒業論文では、発展途上国のキャッシュレス化を論じた。この4年間では、経済学を学ぶだけではなく、幅広い教養を身に付けることができた。また、礼拝の時間や他学科の講義などを通じ、次第に「人と人とのつながり」を意識するようになった。卒業後は、地域の人々につながる金融関係の仕事に進む道を選んだ。



ゼミの仲間と。筆者は左から4人目

### 多角的な視点で

国際社会学科 社会学専攻

大館 萌子 OODATE Moeko

社会学専攻での学びを通し、物事を多角的に見ることの重要性を感じた。私は4年間競技ダンス部での活動に打ち込んだ経験から、卒業論文では競技ダンスの世界をテーマにした。自分が所属しているコミュニティをテーマにすることで、普段は見過ごしがちな疑問点や小さな違和感にさまざまな面からとことん向き合い、自分なりの答えを出すことができたのではないと思う。新しい環境でも本学で学んだことを生かし、さらに成長していきたい。



競技ダンス部の同期と。筆者は前列右から2人目

### 多様性の素晴らしさ

心理・コミュニケーション学科 心理学専攻

渡邊 真己 WATANABE Mako

心理学専攻での学びを通して、個人を尊重し傾聴することの大切さを学んだ。この学びは、テーマパークのスタッフアルバイトで生かすことができ、多くの来場者を笑顔にできたと思う。卒業論文は4人のゼミ仲間と取り組み、物事をさまざまな視点からとらえ、互いの意見を尊重し学び合いながら執筆を進めた。私たちは一人ひとり異なり、唯一無二の存在である。これからも相手を尊重し、相手の心に寄り添える人間へと成長していきたい。



田中健夫ゼミの卒業執筆仲間と。筆者は右から2人目

### 学んだことを生かして

数理科学科 数学専攻

加邊 美実 KABE Minori

幾何学や代数学、確率論、解析学などの数学だけでなくさまざまな分野の学問について、広く学ぶことができた。ゼミではソリトンの数理論を研究し、解析学の面白さと難しさを学んだ。難しさに直面した際には、教授やゼミの仲間が助けてくれ、学び合うことの大切さを知った。直接法を用いて微分や積分を繰り返しながらソリトン方程式の構造も探求した。本学で得られた学びを胸に、今後は数学の魅力を伝える教員として日々成長していきたい。



大阿久ゼミの教授や仲間と。筆者は右の一番奥

### 新しい専攻での学びを通じて

国際社会学科 コミュニティ構想専攻

四十物 志保 AIMONO Shiho

コミュニティ構想専攻の一期生となり、前例がないからこそ、ある意味学びの形は自由で、座学にとらわれず、さまざまなことに挑戦できた4年間であった。特にまちづくりの分野では、まちのコミュニティの中に入り込んで調査することが多く、さまざまな人間関係の在り方、まちの在り方について知ることができた。多種多様な人が共生するコミュニティの中で作り上げられる「人のつながり」の重要性を、学びを通じて改めて気付かされた。



桑子ゼミにて。筆者は右から3人目

### 「やりたい」をかなえる

心理・コミュニケーション学科 コミュニケーション専攻

小林 明日香 KOBAYASHI Asuka

私の大学生活は多くの「やりたい」にあふれていた。入学当初の目標通り、卒業論文はファン心理をテーマに、同じ関心を持った友人たちと執筆に励み、満足いく発表ができた。また、ドラマを見て興味を持ったWeb制作も、関連する授業を積極的に履修し、自ら学ぶことの大切さを実感した。大学で見つけた新たな「やりたい」を実現するため、社会人になっていく。今後も自分の中の「やりたい」を大切に、学び続けていきたい。



卒業論文を執筆した仲良しメンバーと。筆者は右端

### 新遊戯新発想

数理科学科 情報理学専攻

山本 春奈 YAMAMOTO Haruna

情報化社会ではどのような場面でもプログラミングは不可欠だが、身近な遊戯(ゲーム)もプログラミングと密接な関係がある。4年次のゼミでゲームを制作した。一見、楽しそうだが実際は違う。オブジェクトを動かすには、緻密なプログラムを書かなくてはいけない。正解がない中で、理想とする形に近づけるまで試行錯誤を繰り返した。おかげで、課題にも柔軟に対応する力が身に付いた。この培った力を、卒業後も生かしていきたい。



萩田ゼミの仲間と。筆者は下段左端



## TWCU OG TALK

◆ 卒業生インタビュー ◆ Vol.6

卒業後も学び続け、仕事をする上で必要な知識を身に付けると同時に、ライフステージの変化で得た新たな視点を生かして自分の力に変えていく、そんな卒業生からのメッセージをお届けします。

### 自分の力を存分に 発揮できる社会を目指して

2020年10月にアスリートを対象としたキャリアサポートの会社を設立しました。アスリートが現役中や引退後に「何をしたいのか」を見つけてことや、転職活動の支援を行っています。今後の取り組みとして、スポーツ教室など子どもとトップアスリートが交流できるイベントの運営も予定しています。

幼い頃にサッカーと出会って以来、26歳まで現役で活動を続け、日本一を決める舞台にも二度立ちました。あるとき、このままサッカーだけを続けて将来のキャリアはどうなるのだろうかと不安になって引退しました。しかし、現役中でもキャリア形成は可能であった中で、その機会を自分で作り出せなかったことに後から気付きました。私自身の経験から、現役のアスリートが競技に集中し、キャリアの不安を抱えず、存分に力を発揮できるような社会の在り方を築いていきたいと思い、起業を決意しました。

数学の教員を目指していた高校生の頃、数学をより深く学べる大学に進学したいと考えていたので、その学びを実現できる東京女子大学を選びました。サッカーと大学生活の両立はとても大変で、2年次にサッカー日本女子代表として選出された際には授業に出席できない日々もありましたが、先生や同級生のサポートもあり、教員免許を取得して4年間で卒業できました。

学生の個性や自由を尊重し、一人ひとりの良さを十分に発揮できる場所であり、そしてさまざまなことに挑戦

株式会社Champ 代表取締役

**山田 頌子**さん

YAMADA Shoko

2013年3月現代教養学部数理科学科数学専攻卒業。大山ゼミ。プロサッカー選手として活動し、在学中も世代別女子サッカー日本代表の一員として、FIFA U-20女子ワールドカップドイツ2010など、出場多数。2017年に現役引退後、2020年に法政大学大学院キャリアデザイン学研究科を修了。同年に会社を立ち上げ現職に至る。

できる東京女子大学だからこそ、成し遂げられたのだと思います。大学の授業の中では、「不正解」を恐れるのではなく、まずやってみることの大切さを教えていただきました。卒業後サッカーの道に進み、社会人になった今でも、大学で培った「何事にも挑戦する」という精神は私の中で生き続けています。

一人ひとりが「やりたいこと」を見つけ、アスリートとしての姿以外でも自身の力を発揮できるようにサポートするのが私の仕事です。これからは会社経営を通してスポーツ界や社会に貢献しつつ、私も趣味を見つけるなど自分の「やりたいこと」を楽しんでいきたいと思っています。



©TOKYO VERDY BS

学生記者担当ページ

## 就職内定者 INTERVIEW

在学生の誰もが不安を抱えているであろう就職活動。今回は学生記者3名が、就職活動を終えた先輩たちにインタビューを行い、実体験をふまえたアドバイスやメッセージをいただきました。

学生記者

人文学科 日本文学専攻 2年  
**矢野 真実** YANO Mami  
人文学科 歴史文化専攻 3年  
**長谷川 菜々子** HASEGAWA Nanako  
国際社会学科 コミュニティ構想専攻 3年  
**桑原 千尋** KUWABARA Chihiro



国際社会学科 コミュニティ構想専攻 4年

**小泉 晶子**さん KOIZUMI Akiko

### 横浜市職員に内定

**記者** 就職活動はどのようなスケジュールで臨みましたか？

**小泉さん** 2年次の3月から公務員の筆記試験の勉強を始めました。すきま時間も有効活用し、独学で問題集をひたすら解いて、過去問の傾向をつかみました。筆記試験の勉強に集中するために、3年次の6月頃から自己分析を始め、年内には終わるようにしました。

**記者** ESや面接対策など、就職活動として取り組んだことを教えてください。

**小泉さん** 就職活動サイトやキャリア・センターのカウンセリングで自己分析をして、自己PRを書いたり、面接対策に役立てたりしました。キャリア・センター主催の公務員試験対策トライアル講座にも参加しました。独学で勉強するだけでなく、短期間に集中してプロの方から要点を学べたのは、とても良い機会でした。また、公務員ではなく民間企業のインターンシップでしたが、1年次の夏に1社、3年次の夏に2社参加して進路決定の参考にしました。

**記者** モチベーションはどのように維持しましたか？

**小泉さん** 筆記試験の勉強をしたノートを積み重ねて、「努力の見える化」をしていました。あとは、横浜市の説明会や公務員の方のお話を聞くイベントに参加してモチベーションを保っていました。

### 編集後記

「この人たちと働きたい、そう思ったことが進路の決め手」、「後に就活に集中するために単位を取っておくこと、今続けられていることを大切に、周りに流されず自分を信じる」という言葉に勇気付けられるとともに、進路選びのヒントになると感じました。限られた誌面には収まりきれないほど先輩方は多くの心に残るお話をしてくださいました。取材にご協力くださった先輩方に心から感謝いたします。



国際社会学科 経済学専攻 4年

**松村 天音**さん MATSUMURA Amane

### 株式会社ディスコに内定

**記者** 就職活動の対策について、情報が多すぎてどれを参考にすれば良いのか悩んでいます。松村さんはどのようにしていましたか？

**松村さん** 私は、自分が心から納得できるものや、「この人の言っていることなら信じられる」といったものだけを参考にしていました。それでも不安が残るのであれば、周りの人やキャリア・センターに相談してみると良いと思います。

**記者** オンライン面接で特に気を付けた点はありますか？

**松村さん** カメラを見て話すことです。つい、画面に映る面接官の顔を見て話してしまうと思います。しかし、それだと相手にとって自分がずっと下を向いて話しているように見えてしまいます。最初は慣れなかったのですが、回数を重ねるごとに慣れていきました。

**記者** 就職活動を控える学生にアドバイスをお願いします。

**松村さん** 1・2年次の皆さんは、今取り組んでいる勉強や部活動、アルバイトなどを全力で頑張ってください。その中で自分が楽しさを感じられたことや、継続できたことは強みにつながります。3年次の皆さんは、今までやってきた活動に対してちゃんと振り返ってみてください。大切なのはそこでネガティブにならないこと！自分の強みや誇れることは必ずあります。行き詰まったときでもちゃんと自分と向き合ってあげましょう。



第5回

## 英国近代の「フェアリー・テイル」、 ウォルター・スコットとスコットランド

国際英語専攻 吉野ゼミ

本学ともゆかりのある都市エディンバラを擁するスコットランド(1910年にエディンバラで開催された世界宣教会議が本学設立の原点となった一本学公式サイトより)。18-19世紀初頭には啓蒙思想の輝きとともにヨーロッパ有数の近代知の拠点となると同時に、グリム兄弟によるドイツ民話の蒐集にも影響を及ぼした口承伝統のバラッド蒐集が進展する等、「前近代」への関心も高まるなかで、現在の英国の原型となる近代国家の形成とあいまって国民文化、伝統文化の模索や(再)定義が葛藤とともに展開した場ともなりました。

時代の流れとともに変わりゆく目前の風景を、鋭く見据えた結果としての「近代」と「前近代」、そして「文字」と「口誦」の交錯は、治安判事の業務の合間に赴任地セルカーク周辺のバラッド蒐集に熱中した後、詩人、小説家となったウォルター・スコットや、幼少期から身近でうたわれるバラッドに親しんだ「エトリックの羊飼ひ」ジェイムズ・ホッグの実験性あふれる詩や歴史小説などに、特に認められます。両者は、中世から現代にいたるブリテン諸島におけるフェアリー・テイルの創造と再創造の歴史の上でも、独特の位置に佇んでいます。彼らが蒐集したバラッドや、彼ら自身が創作した詩や小説に描出された



ハイランドの自然と歴史はロマン派の想像力の源泉ともなった

妖精像は、近代化により「失われつつある」と知覚されていた風景や言葉を前に、前近代に由来する伝統文化の希求や憧憬、王国から英国内の一地域へと変貌を遂げたスコットランドがどうあるべきかという問題をめぐる模索や葛藤の痕跡をにじませています。

のちにヴィクトリア朝期、英国ではフェアリー・テイルの空前の流行が起こり、グリム『ドイツ民話集』の英語訳が人気を博し続け、大英帝国内の多様な地域の民話も蒐集されアンドルー・ラング『青色の童話集』、アイルランドではW.B.イェイツ『アイルランド農民の妖精物語と民話集』等が、時にコスモポリタンの、あるいはナショナルリスタ的な関心とともに続々と刊行されました。近代英国で(再)創造された妖精をめぐる物語群には、ラングやG.マクドナルド等のスコットランド出身の文人が多く関わっていますが、彼らの作品を紐解くと必ずウォルター・スコットに辿り着くといわれています。

### 入門コンテンツ



『スコットランド文学の深層  
—場所・言語・想像力』  
(春風社、2020年)

木村 正俊 編

「オシアン詩」以降のスコットランド文学史を俯瞰する構成で、R.バーンズ、R.L.スティーヴンソン、J.M.バリ、ラフカディオ・ハーン論も収録。歴史小説、バラッド、ケルト文化に現代のグラスゴー、捏造された伝説も交錯するスコットランド文学の魅力と諸相を掘り下げる。

吉野 由起 YOSHINO Yuki

国際英語学科 国際英語専攻 専任講師

東京大学文学部卒業。同大学院人文社会学系研究科修士課程修了。英国 University of Edinburgh 博士課程修了、PhD (English Literature)。三重大学人文学部准教授を経て現職。

## 第36回「女性史青山なを賞」受賞作決定

桑原 ヒサ子 著  
『ナチス機関誌「女性展望」を読む  
——女性表象、日常生活、戦時動員』

(青弓社 2020年9月)

第36回「女性史青山なを賞」学内選考委員/人文学科 歴史文化専攻 教授

佐藤 全敏 SATO Masatoshi

本書は、ドイツ・ナチ党が公認した唯一の女性雑誌『女性展望』を解説する稀有な書物である。現在忘れ去られているこの『女性展望』は、多いときには230万部も印刷された、当時ドイツでもっとも読まれた女性雑誌である。この雑誌は、娯楽的な性格をもちつつ、社会的・文化的領域での「理想的な」女性像を伝達する、有力なプロパガンダメディアであった。

著者はこの雑誌のバックナンバーを、ドイツの古書店等を通じてこつこつと蒐集し、手堅く明朗な技術で分析する。ナチス・ドイツ期の女性表象、実際の女性たちの日常生活、女性の戦時動員、そして中産階級の女性たちの社会進出の様子、一般読者もすらすら読めるように大変わかりやすく記される。雑誌の分析だから、図版も豊富に載せられ、表象・美術分析もたっぴりとなされる。テーマは、ファッション・料理から、女性兵士の問題や、女性大衆を動員する全国女性指導者の実態にまで及ぶ。型にはまったタイプのジェンダー史研究の外にある一冊である。

◎今年度は、日本の古代から近代までのジェンダーについての通史として重要な以下の作品に、特別賞を授与いたします。

国立歴史民俗博物館 編『企画展示 性差(ジェンダー)の日本史』

(一般財団法人歴史民俗博物館振興会 2020年10月)

## 第37回「青山なを研究奨励金」 2022年度助成研究を公募します

現在継続中またはこれから行おうとする女性史に関する研究プロジェクトに対して授与されるものです。

- 対象 本学の卒業生もしくは在学学生、またはこれらを代表者とするグループ
- 年限 1か年
- 件数 2件程度
- 金額 1件10万~20万円
- 義務 研究成果報告書等、必要書類を提出
- 申込締切 2022年5月20日(金) 16時
- 選考 青山なを記念基金運営委員会
- 発表 2022年6月
- 応募方法 Eメールにて住所、氏名、(卒業または在学)年次、学科、専攻をご記入の上、送信してください。折り返し申請書を送付いたします。女性学研究所公式サイト(<https://irowg.jp/>)からも申請書をダウンロードできます。

### お問合せ

iws@lab.twcu.ac.jp  
(女性学研究所内  
「青山なを記念基金運営委員会」)



## 研究紹介動画『挑戦する知性』

東京女子大学公式サイトにおいて、教員の研究を分かりやすく紹介するインタビュー動画『挑戦する知性』を2021年10月より公開しました。

「開かれた大学」をキーワードとする取り組みの一環として、教員が自身の研究内容や今後挑戦したい事などを中心に、具体的かつ熱心に解説する3分程の動画コンテンツとなりました。

東京女子大学の質の高い教育は、研究力に裏付けられています。現時点では現代教養学部の5学科からそれぞれ1名の動画コ

ンテンツが完成し公開しておりますが、今後も継続的に制作を進め、本学教員の魅力ある研究について紹介していく予定です。



教員研究紹介

退職にあたって



はじまりの牟礼

国際社会学科 国際関係専攻 教授  
黒沢 文貴 KUROSAWA Fumitaka

1995年4月に本学に着任しました。牟礼キャンパスにあった現代文化学部地域文化学科、森本哲郎氏の後任でした。牟礼キャンパスは井の頭公園から続く住宅街を抜けたところにあり、こぢんまりとした、とても美しい知的なワンダーランドでした。文理学部の授業も週一であり、ときには学長車で両キャンパスを往復。牧歌的な牟礼に比べ、善福寺キャンパスは多くの学生がいて広く、田舎から都会に出て来たような感覚でした。学部のキャッチフレーズは「学際性・国際性・現代性」、それにふさわしく毎週水曜日の夜に懇親会があり、分野の異なる先生方との交流が楽しめました。一筋の光が胸に刺さり、心に焼きついた日々で、その後のキラキラした本学での人生のはじまりでした。善福寺時代も含めて、学生、卒業生、教職員の皆さんに感謝申し上げます。



再び臨床へ

心理・コミュニケーション学科 心理学専攻 教授  
柴山 雅俊 SHIBAYAMA Masatoshi

東京女子大学の前は、刑務所、総合病院や大学病院で精神科診療に携わってきました。最初の研修症例は昔で言うヒステリーでした(今日では解離症)。ヒステリーは時代とともにその姿を変え、その多くは今日トラウマと関係していることが多く、境界性パーソナリティ障害の併存診断もしばしばです。以来、性格なのか環境なのか、身体なのか精神なのか、精神病なのか神経症なのかといった、割り切ることが困難な「境界」領域に関心を向けました。のちに刑務所での経験を通してこういった方向性をさらに強め、精神病理学を専門としました。東京女子大学では有意義な体験をさせていただきましたが、退職後は再び臨床に没入したいと思っています。

書籍紹介



『日本の国際協力 アジア編 経済成長から「持続可能な社会」の実現へ』  
ミネルヴァ書房 2021年6月  
国際社会学科 経済学専攻 教授  
古沢 希代子 分担執筆  
(重田 康博、太田 和宏、福島 浩治、藤田 和子 編著)



The Genesis of Husserl's Phenomenology  
東京大学出版会 2021年7月  
人文学科 哲学専攻 教授  
榊原 哲也 著(江口 建訳)



『それいけ!方言探偵団』  
平凡社 2021年12月  
人文学科 日本文学専攻 教授  
篠崎 晃一 著



『帝国幻想と台湾 1871-1949』  
花鳥社 2021年12月  
人文学科 日本文学専攻 教授  
和田 博文 分担執筆  
(吳 佩珍、宮内 淳子、横路 啓子、和田 桂子 著)



『現代語版 勤王侠客 黒駒勝蔵』  
敬文舎 2021年12月  
人文学科 歴史文化専攻 教授  
高橋 修 現代語訳(原著:堀内 良平)



シリーズ戦争と社会1  
『戦争と社会』という問い』  
岩波書店 2021年12月  
人文学科 歴史文化専攻 准教授  
柳原 伸洋 分担執筆  
(蘭 信三、一ノ瀬 俊也、石原 俊、佐藤 文香、西村 明、野上 元、福岡 良明 編)

初の試み、ハイブリッド開催 —第68回VERA祭を終えて—

第68回 VERA祭実行委員会 委員長  
人文学科 日本文学専攻 3年

本間 あゆみ HOMMA Ayumi

第68回VERA祭では、在学生には感染症対策を行った上で構内での対面企画を、外部の方にはオンライン企画をお楽しみいただきました。対面では講演会やサークルによる発表・展示、VERA祭グッズの販売などを、オンラインでは受験相談会や歌やダンス、サークル紹介動画などをご用意しました。対面とオンラインの企画が併用された「ハイブリッド開催」は初の試みでありましたが、一人でも多くの皆さんに楽しんでいただきたい、大学で素敵な思い出を作ってほしいとの思いからこの形態に決定しました。活動が制限され対面開催が実現するか直前まで明確にならない中、感染症対策として同時入構者数の制限や動線の工夫をするなど各部署の部長を中心に委員一丸となり、テーマ「Blooming」に沿う笑顔あふれ



「Blooming」をテーマに開催

る大学祭を作ることができたと大変うれしく思っております。いまだ新型コロナウイルス感染症の収束を見通せない状況ですが、来年度も多くの方に楽しんでいただける大学祭を目指して準備を進めております。これからのVERA祭もどうぞよろしくお願いいたします。

朝日教育会議

「Society5.0の女子教育とリベラル・アーツ」開催



採録記事

Society5.0と呼ばれる新しい社会像の中で、女性が自分らしく活躍していくためのリベラル・アーツ教育とは何か。2021年12月5日に朝日新聞社と教育フォーラム「朝日教育会議2021」を共催しました。

基調講演には卒業生で株式会社ポーラ代表取締役社長の及川美紀氏をお迎えし、利益を追求するだけでなく、社会課題を解決するための企業の新たな取り組みやその実現に求められる人物像についてお話しいただきました。「より良い社会を実現するために一人ひとりが可能性に蓋をせず一歩踏み出す勇気を持つことが大切」というメッ

セージが印象的でした。続く第二部では、現代教養学部長の小田浩一教授による本学の教育改革に関する報告、さらに第三部ではおふたりに加え女性のエンパワーメント支援にご活躍のGender Action Platform理事の大崎麻子氏をお迎えし、女子大学で学ぶ意義やこれからの世代に期待すること、そして可能性を広げるためのリベラル・アーツ教育の重要性について議論しました。

女子大学で学んだからこそ、自らの視点に誇りを持って自分の可能性を主張し、そして社会に貢献できる人になってほしい、そんな思いが一致した一日となりました。

2022年度 学年暦

2022年度現代教養学部学年暦および大学院学年暦が決まりました。本学公式サイトをご覧ください。



学年暦・キャンパスカレンダー

謹弔

謹んで哀悼の意を表します。

池 明観先生  
2022年1月1日ご逝去 97歳

1981年4月 比較文化研究所 客員教授就任  
1986年4月 短期大学部 教養科 教授就任  
1993年3月 定年退職  
現代文化学部 地域文化学科 主任などを務められた。

NOTICE

次期学長決定

茂里一紘学長は2022年3月31日をもって任期満了により退任いたします。次期学長は、森本あんり氏に決定いたしました。任期は2022年4月1日から2026年3月31日までの4年間です。

REPORT

2021年度教育後援会評議員会報告

新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない中での学生生活が、2年目の終わりを迎えています。本学では、対面授業と遠隔授業を状況に応じて柔軟に組み合わせ、教育の質の維持に努めております。これまでにない状況が続いていますが、教育後援会の会員の皆さまには日頃と変わらない温かいご支援をいただき、厚く御礼申し上げます。

2021年7月に行われる予定でした教育後援会評議員会は、感染症拡大の状況を考慮して、昨年度に続き書面での開催を余儀なくされました。本来でしたら評議員の皆さまにキャンパスへお集まりいただき、日頃のご支援に対するお礼と大学の近況を説明する予定でしたが、それがかなわず大変残念に思います。この場をお借りしてお詫び申し上げます。

●教育後援会2020年度決算および2021年度予算

決算は2020年4月1日から2021年3月31日  
予算は2021年4月1日から2022年3月31日まで (単位:円)

科目	2021年度予算額	2020年度決算額
<b>収入の部</b>		
1 会費収入	64,830,000	67,630,000
現代教養学部	64,830,000	67,630,000
2 前期末会費未収入金収入	90,000	50,000
3 利子収入	10,000	163
4 期末会費未収入金	—	△ 90,000
当期収入合計(A)	64,930,000	67,590,163
前年度繰越金	360,000	700,860
収入の部合計(B)	65,290,000	68,291,023
<b>支出の部</b>		
1 事業費	64,790,000	67,491,832
広報誌関係費	2,720,000	2,839,041
父母懇談会(学内)	850,000	564,822
父母懇談会(学外)	1,100,000	0
東京女子大学への寄付金	60,120,000	64,087,969
2 事務費	500,000	431,353
消耗品費	20,000	9,176
印刷費	10,000	33,150
通信費	100,000	163,227
旅費交通費	0	0
会議費	120,000	1,290
報酬手数料	250,000	224,510
支出の部合計(C)	65,290,000	67,923,185
当期収支差額(A)－(C)	△ 360,000	△ 333,022
次年度繰越金(B)－(C)	0	367,838

教育研究支援部 学生生活課 課長

森田 光則 MORITA Mitsunori

2021年度の評議員は141名(2・3・4年生のご父母88名、新入生のご父母53名)となりました。近年は首都圏以外にお住まいの方にもご協力いただいております。今年度評議員会では、新役員の選任、2020年度決算、2021年度予算および寄付金使途、会則の一部改正が審議され、いずれも多数のご賛同を得て承認されました。新役員として、会長は佐藤康久様(前年度副会長より昇任)、副会長は森田有継様(重任) および平賀尚史様(新任)がそれぞれ選任されました。なお、20年度会長の濱田洋通様は今回の評議員会をもちましてご退任となります。濱田様のこれまでのご尽力に感謝いたします。

一日も早く感染が収束し、来年度こそはキャンパスにお迎えできることを願っております。引き続き本学の教育・研究活動へのご理解、ご協力のほど、何卒よろしく願い申し上げます。✿

●2020年度の東京女子大学への寄付金の使途

1. 学内インターネット環境整備	17,196,116円
2. キャリアカウンセラー委託費補助	12,000,000円
3. 教室の視聴覚機器更新、デジタル対応化	11,350,180円
4. 図書館の学習環境整備	6,392,127円
5. 学生用ソフトウェア導入費用	6,002,480円
6. グラウンド天然芝年間維持管理費	4,950,000円
7. 24号館ガラス飛散防止フィルム貼付	3,438,600円
8. 学生活動補助(大学祭補助金)	1,100,000円
9. 学生の電話健康サポート委託費	872,666円
10. 学生の文化活動支援	785,800円
・東京国立博物館キャンパスメンバーズ会費	215,000円
・国立美術館キャンパスメンバーズ会費(4館利用)	370,000円
・国立科学博物館大学パートナーシップ年会費	200,800円
計	64,087,969円

●2021年度の東京女子大学への寄付金の使途

1. キャリアカウンセラー委託費補助	12,000,000円
2. 学内インターネット環境整備	8,500,000円
3. 教室の視聴覚機器更新、デジタル対応化	8,310,000円
4. 23号館ガラス飛散防止フィルム貼付	7,670,000円
5. 図書館の学習環境整備	7,360,000円
6. グラウンド天然芝年間維持管理費	4,950,000円
7. 学生用Webシステムの機能拡充・改修費用一部補助	3,500,000円
8. 学生相談室カウンセラー増員費用補助	2,000,000円
9. 学生の電話健康サポート委託費	1,500,000円
10. デジタルサイエンス教育強化による全学的ソフトウェア導入費用補助	1,360,000円
11. 学生活動補助(大学祭補助金)	1,100,000円
12. 食堂運営業務委託費一部補助	1,000,000円
13. 学生の文化活動支援	870,000円
・東京国立博物館キャンパスメンバーズ会費	260,000円
・国立美術館キャンパスメンバーズ会費(4館利用)	370,000円
・国立科学博物館大学パートナーシップ年会費	240,000円
計	60,120,000円

REPORT

ご支援へのお礼

多数のご寄付をいただき、ありがとうございました。ご芳名のWEBへの掲載は控えさせていただきます。

REPORT

クリスマス献金報告

感謝をもってご報告いたします。

総額	303,844円
送付先	
小羊学園	50,500円
日本聾話学校	50,500円
アジアキリスト教教育基金(ACEF)	50,500円
チャイルド・ファンド・ジャパン	50,500円
カレーズの会(アフガニスタン医療支援)	50,500円
タイ山岳少数民族支援団体メーコック財団	51,344円

同窓会からのお知らせ

卒業される皆さまへ ご卒業おめでとうございます。

ご卒業後4月から皆さまは、同窓会の会員となられます。同窓会には、本部の他、国内54・海外7の支部があります。同窓会主催行事については、ホームページをご覧ください。日程などやむなく変更する場合は、ホームページにてお知らせします。開催の有無を必ず確認の上ご参加ください。また、改姓・住所変更などの場合は、お知らせください。ホームページでも受け付けております。

Tel.03-3395-4448 Fax.03-3395-0084  
https://www.twcu-alumnae.jp/  
E-mail: office@twcu.jp  
(9:00~17:00開館 日・月曜日、祝日休館)

NOTICE

2021年度異動

●任期満了(2022年3月31日付)  
茂里 一紘 学長

●定年・定年扱退職(2022年3月31日付)

[教育職員]  
鈴木 栄 国際英語学科 国際英語専攻 教授  
鶴田 知佳子 国際英語学科 国際英語専攻 教授  
黒沢 文貴 国際社会学科 国際関係専攻 教授  
柴山 雅俊 心理・コミュニケーション学科 心理学専攻 教授  
[事務職員]  
原田 知恵子 教育研究支援部 部長  
倉本 聖恵 教育研究支援部 教育研究支援課 課長  
森岡 敦子 教育研究支援部 学生生活課 課長補佐  
今本 薫 教育研究支援部 図書館課 課長補佐

●退職(2022年3月31日付)  
森 博英 国際英語学科 国際英語専攻 教授  
矢田 洋子 人文学科 哲学専攻 専任講師

NOTICE

遺贈・相続財産によるご寄付について

■遺贈によるご寄付について

本学の遺贈による寄付制度はあらかじめ作成した遺言書に基づき、逝去されたときに財産の一部を本学に寄贈いただき、教育研究活動の財源として活用させていただくものです。相談窓口として、信託銀行を紹介いたします。なお、本学にご遺贈いただいた財産に相続税は課税されません。

■相続財産のご寄付について

財産の相続または遺贈を受けられた方が、本学に当該財産をご寄付された場合、相続税法上の優遇措置を受けることができます。詳細は、事務局へお問い合わせください。

問い合わせ先

大学運営部総務課(寄付担当) TEL:03-5382-6340

同窓会の主な活動

同期の方のお集まり: 卒業後10年・20年・30年・40年の会、50年お花見の会  
該当学年の皆さまには、同窓会から直接お知らせいたします。  
園遊会(Homecoming Day) 4月29日(金・祝)  
就職活動サポート講座「先輩と話そう」(在学生対象)(予定)  
講座・講習 キリスト教・パソコン・いけ花・英会話・クリスマスリースなど  
観劇 文楽(9月・2月)、歌舞伎(1月)、ミュージカル、コンサートなど  
情報の発信「同窓会会報」(9月・3月)年2回、『荻窪だより』年3回、メールマガジン年2回  
求人情報提供  
貸室 クラス会・勉強会・コーラス・俳句会・音楽会・結婚披露宴など  
みずき会(結婚相談) 第2・4日曜 11:30~16:00 Tel.03-5382-1780(開室時間内)  
同窓会オリジナルグッズ 「クリアファイル(各種)」「チケットホルダー」「VERAブローチ」「キークリップ」「オリジナル印傳グッズ」「チャペル傘入れ」「一筆箋」などを販売中。



表紙の場所

講堂。アメリカの女性たちや本学卒業生、在学生の父母などの寄付を得て、チャペルと講堂を組み合わせた建物が誕生しました。木の温かい質感が印象的な講堂は、扇形のステージと、約1,000もの座席を有しています。入学式、卒業式、講演会といった学内のさまざまなイベントが行われ、秋には大学祭（VERA祭）の会場としても使用されています。

竣工年：1938（昭和13）年  
設計：アントニン・レーモンド  
■文化庁登録有形文化財  
■1992年（平成4）年BELCA賞（ロングライフ・ビルディング部門）受賞

## 広報誌『VERA』定期購読のご案内

詳しくは、本学公式サイトをご覧ください。



## VERA ネーミングの由来

『VERA』はラテン語で「真実」を意味します。本学の本館に刻まれている「QUAECUNQUE SUNT VERA」（すべて真実なこと）は新約聖書「フィリピの信徒への手紙 第4章8節」の中の聖句の一節で、自由な学問の場としての本学を表しています。広報誌『VERA』により、真理の探究の場である本学の「いま」、学生、教育、研究、卒業生の「いま」を伝えることを使命として、教職員および学生への公募の結果、新たな名称として採用されました。

## Web アンケート

新しくなった『VERA』に関するご意見、ご要望をお寄せください。QRコードよりご入力ください。



# VERA

第3号／2021年度

## Contents

### 02 SPECIAL FEATURE

#### 「犠牲と奉仕の念なくば」

—卒業・修了する皆さんへ

……茂里 一紘

### 04 Students

学びを終えて 学部卒業生のメッセージ

……大塚 真希、北川 咲緒里、竹川 知佳、久野 沙弥、杉山 奏乃、増田 唯、大館 萌子、四十物 志保、渡邊 真己、小林 明日香、加邊 美実、山本 春奈

### 06 Students

学びを終えて 大学院修了生のメッセージ

……磯部 香菜子、井戸 まさえ、河原 美彩子  
博士後期課程修了者—博士論文／  
2021年度 各賞受賞

### 08 Career

TWCU OG TALK vol.6……山田 頌子 さん

学生記者担当ページ 就職内定者INTERVIEW

### 10 Studies

ゼミの小窓 第5回……吉野 由起

第36回「女性史青山なを賞」受賞作決定

桑原ヒサ子著『ナチス機関誌「女性展望」を読む  
—女性表象、日常生活、戦時動員』……佐藤 全敏  
研究紹介動画『挑戦する知性』

### 12 TOPICS

退職にあたって……黒沢 文貴、柴山 雅俊／  
書籍紹介／

初の試み、ハイブリッド開催

—第68回VERA祭を終えて——本間 あゆみ／

朝日教育会議

「Society5.0の女子教育とリベラル・アーツ」開催／

2022年度 学年暦／

謹弔

### 14 NEWS

次期学長決定／

2021年度教育後援会評議員会報告

……森田 光則／

ご支援へのお礼／クリスマス献金報告／

2021年度異動／

遺贈・相続財産によるご寄付について／

同窓会からのお知らせ



2022年3月31日発行

東京女子大学

発行：東京女子大学 編集：広報委員会

〒167-8585 東京都杉並区善福寺2-6-1 TEL: 03-5382-6476（広報課）

公式サイト

